

# The Спасибо JOURNAL of MEDICINE

ARRIVED AT 8/25

AUGUST 26

vol. 1

## カザフスタン活動記第1,2日目(8月26,27日) ～準備編～

Masashi Kuriyama, Airi Kuruma, Kanako Yokoyama, Kazuya Maeda, Daiju Ueda

### ABSTRACT

8/26: 一日中移動日でした. 朝に日本を出発し, カザフスタンのアスタナに着いたのは夜でした.  
関西空港(日本)→仁川空港(韓国)→アルマティ(カザフスタン)→アスタナ(カザフスタン)  
8/27: 会場の下見をしました. その後アスタナの観光にでかけました.

#### 栗山 政士

カザフスタンで迎える2日目の夜. 昨日飛行機の乗り換えの時にアマルティで感じた湿り気を帯びた暑い空気とは違い, ここアスタナは冬の始まりを感じさせるほどの寒さであった. 今日は会場の下見. 会場に辿り着くまでの道の途中, 大きなモスクやピラミッド状の建物が僕らを出迎えた. 一つ一つが大きく人工都市と実感させられる物々しさの中に不自然さがあった. いよいよ会場内. 最初は中を見させてもらえない感じであったが, 事情を話して何とか侵入笑. プロジェクターのチェックや部屋の確認, 翻訳機の試用を行ない, 会場の方々とも仲良くなり上の階の展示物も見せていただき準備万端!! その後はホテルに荷物を置いてから, ラム肉をお昼に食べ, アスタナの中心部を観光した. 午前中の寒さとは打って変わって, 日が照ると少し暑いぐらいだ. それにしても風が強くコロコロと気温が変わる. 体調管理には気を付けねば. さあ明日からippnwが始まるぞ!



fig.1: 準備中のメンバー

#### 來間 愛里



fig.2: 未来のパネリスト

初期研修医の來間愛里です. IPPNW世界大会の様子を3日間しっかりご報告させていただきますのでよろしくお願い致します. 駄文ではございますが最後まで読んでいただけますと幸いです. 8月25日は朝に日本を出発し, 仁川とアルマティを経由してアスタナへ無事到着しました. 翌26日は最高気温15度の寒空の下, 近代的でいかにも“つくられたような”町並みを15分歩いて会場へ. 会場周囲はカザフの国旗の下地と同じライトブルーの建物や旗であふれていました. 国旗のデザインはカザフの草原の空の青と自由と力強さを表す鷲, 豊作を願う太陽だそうです. 下見や設営の交渉などスムーズにこなした後は(さすが先生方!), アスタナの中心街を見学. あちらこちらで見かける唐草模様によく似たデザインは羊の角を表しているそうです. レストランのメニューにはラム肉や馬肉が並んでいて遊牧民であったことがうかがえました. 近代的で冷たい雰囲気と最初は思いましたが, 人は素朴で優しくアスタナが好きになった一日でした.

横山 加奈子

8/25-26と、IPPNWの学生and若手医師の会議に出席してきました。世界中の20代のキラキラした前向きなディスカッションがそこかしこで溢れており、久々に企画を楽しめました。IPPNWが1985年にノーベル平和賞をもたらした時は冷戦真っ只中であり、核戦争の危機が誰にも感じられ、組織の役割も意味もシンプルで明確でした。それが、今でももちろん核戦争の危機は続いているとしても、学生としてはなかなか今ある危機をシンプルに自分のものとして捉えられない、という問題意識があげられていました。核戦争、核兵器廃絶をうたうだけでは足りないヒバクの問題にも目を向け、それを自分たちの問題としてしっかり捉えようとしており、その姿勢に励まされました。学生ではなく若手医師として、この問題をどう捉えていけるか、あと3日の本大会でも考えていこうと思います。



fig.3: 学生若手医師会議にて

前田 和也

今日は会場下見のつもりでしたが、会場は設営中。それでも大会スタッフや会場スタッフのご好意で下見をさせていただきました。大会初日となる明日は、ワークショップでPANWが発表をします。またブース展示は、ヒロシマ・ナガサキの実相を知らせることや、折り鶴など平和を広げる日本の文化を知ってもらえる機会です。不安はありますが、明日から役割を果たしつつ、学びたいと思います。



fig.4: 観光地ピラミッド



fig.5: 一部メンバー集合写真

植田 大樹

アスタナを歩いていると、違和感がたくさんあります。超高層マンションがどんどん建っていくのに人の気配を感じず、商業地帯が続くと思えば急に広大な空き地が現れます。本当にこの首都に60万人の人が住んでいるんだろうか、と思う程ぬくもりを感じにくい場所でした。しらべてみると、アスタナは人工都市だそうです。中国との軍事政策上、そして民族分裂により紛争を避けるために政府の計画により生まれたとのこと。平和を目的として創られた都市なんですね。そんなことを考えていると、がぜんこの街に興味が湧いてきました。こんなコンセプトをもった都市でIPPNWが開かれるというのも縁があるんですね。今回IPPNWに研修医として参加させていただくという機会をいただけ、とても光栄です。この街でアスタナで、今大会のIPPNWでいろんなことに真正面からぶつかって、何事も経験させていただき、しっかり勉強させていただきます。明日から本番。がんばってきます。



fig.6: 街の風景